

若き日と大学

春四月、まずは入学おめでとう。
青春のただ中にある君たちを広島大学に迎えることを嬉しく思う。と同時に、私は羨望とある悔恨の念をもって君たちを見つめる。銘記してほしい。青春とは悩み、迷い、不安に揺れ動きつつ、未来が書かれるべき一帖の



西条キャンパスに建築中の総合科学部

総合科学部長 戸田吉信

白紙として目の前にある時期なのだ。

大いに悩み、迷うがよい。人生は何のためにあるのか、なぜ人は人を恋しく思うのか？それは何の得にもならぬ、また決して解答の見つからぬ問であろう。しかしそのような問がいつのまにか心から去ったとき、君たちは珠玉のような青春の日々がすでに過去のものであることを、痛苦の念をもって思い至すだろう。

解放感にひたるのもいいだろう。だが白紙は黒くしていかねばならない。受験勉強ではない。本当の学問の世界が手ぐすね引いて君たちを待ち構えている。それは縹渺とした、行けども果てしない世界である。ごまかしの通用せぬ、厳しい世界である。いかなる道に進もうとも、青春の一時期にその厳しさにふれてほしい。大学はそのためにあるのだ。安易な道、名もなき道を行くなかれ。

広島大学は、総合科学部は君たちの期待に応え、地方の雄たることをめざしている。わが学部は明年早々移転する。新天地で、ともに広島大学百年の大計の礎を築こうではないか。

「自分」が主役だっ!!

総合科学部 4 学年

岡村美穂

新入生の皆さん、広大入学、本当におめでとう。そしてお疲れ様。やっと心から羽をのばせる事でしょう。でも、本当に自分自身しつかりしていかねばならぬのはこれからの事である。大学——ここでは何もかも自分次第である。高校時代のように規則で縛られる訳でもないし、次から次へ与えられる物がありそれをこなしていけばいいという訳でもない。まず、「自分」で考えて行動を始めるのだ。それは何に対してでもそうである。勉強に対してでもサークルでもバイトでも遊びでも。何もしなければいけないでも何の支障もなく誰からも干渉うけずに生きていけるのが大学っていうもの。でも、それだけじゃ寂しい。これだけ、いろんな個性を持った様々な人が、北は北海道、南は沖縄までという様々な所から集まっている集団って大学だけだと思う。だから、いろんな人と出会っていろんな経験をして「自分はこれだっ!!」っていうものを、何でもいからゆつくり探してほしい。